

上映作品プログラム

青森①「大山ユウホの眩しい光」 6分 のぼる 監督 OSIM VIDEO

女子大生、大山ユウホは、漫画が大好き。部屋にはお気に入りのキャラクターのポスターが貼ってある。今日は休日。カメラを片手に散歩を始めながら、街をバシヤ、バシヤ。そこに、仲の良さそうな男性二人が歩いてくる。二人が気になるユウホ。よし、追いかけて。そこから、ユウホのいけない妄想ワールドが広がりはじめ。黒石在住のシンガーソングライター、鳴海徹朗さんの新曲「眩しい光」のプロモーションビデオです。

青森②「明日への希望」 9分 Aomorigonta 監督

大震災から1年以上が経過しました。あの時、苦難の中でも私たちは思いやりの心を忘れませんでした。憎しみや争いの広がる兆しのある今、あの出来事を振り返り、今一度前向きに未来を切り開くあたたかい心を思い起こしたいと思います。

秋田①「人工楽園」 26分 遠藤直隆 監督 秋田コネキネマ

核戦争後の地球でただ一人生き残った少女の生活... という良くある設定で始まる物語が、奇怪な真相と思わぬ結末に向けて疾走する、鬱屈した狂気の愛を描くダークサスペンス。屈折した異常な世界観、キャストの怪演、そしてロケ場所である秋田の美しい自然の景観が最大の見所です。

秋田②「Kamaku Love ～水神様の軌跡～」 60分

永沢 豊 監督 制作チーム ファインプレー

死者に恋をする私は、罪人ですか・・・ 生者愛する私は、地獄に落ちますか・・・ かまくらの神様・・・ 私たちは報われますか？「秋田でも映画は作れる！」全キャスト、全スタッフが、オール秋田人（ド素人）で送る1時間長編映画！！秋田の若者のチャレンジを刮目せよ！

岩手①「主人公 A の物語」 18分 檀夏希 監督 North UP riverside apartment

檀夏希の処女作となる作品。主人公となる女の周辺だけで起こるファンタジックホラーを描いた作品。映画とは全く無縁だった檀が初めて手がけた作品であり、多くの人の協力を得て2009年に完成した。主人公アヤの友人、ルリコに恋人が出来た…。何気ない日常に独り、取り残された様な喪失感と、友人を追い抜きたいというちょっとした虚栄心。そんな時、アヤはとある喫茶店で小説を書き続ける男と出会う。

岩手②「災いのあと」 20分 玉垣エーイチ 監督 North UP riverside apartment

東日本大震災から2年。美津子は震災で夫を亡くし、家を失い、娘夫婦の家に身を寄せていた。そこへ、娘の夫の母、幸子が来る。ささやかな平穏の日々に波乱が訪れる。震災の記憶の風化が懸念される昨今、震災のその後の家庭で起こった小さな事件を切り取り、震災の風化の流れに一石を投じる作品。

福島①「シンデレララブストーリー」 10分

齋藤由佳 監督 福島大学映画製作サークル「Lucid Dreamers」

サークルの研究だけに没頭してきた大学生皇見は飲み会の晩、酔って吐きそうになった自分を助けてくれた女性に淡い恋心を抱くが、その女性は24時になったら皇見のもとから去らなければならないという。逃げる彼女に追いついた皇見の見たものとは…。童話・シンデレラを元にしたラブコメディです。

宮城①「ENTER THE PLENTIFUL WORLD !」 30分

我妻和樹 監督

東日本大震災以前の南三陸の漁村を舞台に、地域と深く関わり合いながら生きている人びとの日常を描いたドキュメンタリー。撮影に3年間、それ以前の期間を合わせると6年間地域に入り続け、作者自身3、11のとき現地で被災しました。震災後も地域に入り続ける傍ら、長編映画としてずっと編集を続けていましたが、思い入れが強すぎて未だに完成せず、今回の出品を期に自由に編集してみました。東北の未来に願いを込めて、「ENTER THE PLENTIFUL WORLD !」

山形①「赤いメガネと革命コーヒー」 5分

半田和巳 監督 HANDA-GIKEN Works

東北を拠点に活動するHANDA-GIKEN Worksによる制作。本人自ら演奏を行う音楽ユニット「半田技研」のショートストーリーPV若かりし頃からお世話になっている老舗のカフェ「STREET SHUFFLE」にて青臭い青春の日々をイメージして撮影しました。

山形②「うごくま」 40分 佐藤哲哉 監督

熊の着ぐるみを脱ぐコータ。彼は今、小さなイベント会社での最後の仕事を終えた。実家の酒屋を手伝う事になったのだ。コータの送別会。早々に帰る幼馴染、酔いつぶれる社長、クダを巻く同僚たち…そして、浮かない表情のコータ。そんな場に突如現れたクマの着ぐるみ・森崎熊吾郎！果たして熊吾郎の中身は誰なのか？そして熊吾郎はコータに何を語るのか、語らないのか…！？ちょっとしたおとぎ話です、お気楽にどうぞ。

青森代表のコメント 金山勝

地元、青森県出身者が在住者のメードインアオモリに、こだわってやってきました。県外の映画祭で青森の作品が上映される機会が増え、その勢いで東北限定の上映会を提案しました。各県それぞれの人が、それぞれの思いで映画を制作し上映をしている事を知りました。東北の映像制作者は今、東北の土地で、どんなメッセージを東北の人達に伝えたいのか？ この上映会で感じて下さい。まだまだ、生まれたばかりで発展途上ですが、沢山の可能性を秘めた「東北”エイガ”プロジェクトに、ご期待下さい。

秋田代表のコメント 遠藤直隆

東北”エイガ”東北の地元で小規模ながら地道に作られる味わい深い映画とのことで地ビールならぬ自映画というところか。この世界的な不景気に、金にもならず、ろくな機材も資金もスターも居ないにも拘らず、自我の発動欲求においてこの世に表出されなくてはならない世界がある。

岩手代表のコメント 菅原まゆみ

2011.3.11忘れもしないあの日から、多くの人が傷付いたまま、必死で前へ前へと進んでいる事でしょう。そんな中、幸いにも最小の被害しか受けなかったNorth UPのメンバーは、一人でも多くの人に作品を見てもらい、何かを感じてもらえるように。そして、表現を必要としている人がその人の表現を出来るように広くメンバーを募集し、自己満足ではない作品作りを掲げて活動しています。どうか、映画を通して多くの人が笑顔になります様。

山形代表のコメント 佐藤哲哉

重たい空気も、楽しい空気も、暖かいのも、冷たいのも、全部ひっくるめて今の東北なのかなあ。しかしそんな中で、東北6県のインディ映画が、各地で同時に観られる。面白いと思うし、中々実行できるものではない。これは間違いない面白い企画だ。そんな事を考えながら参加したこのプロジェクト。ちょっと昔の作品を引っ張りだしてくる事になりましたが、山形という辺りな土地で、仕事や学業の合間に映画を撮るという奇妙な人々の力の結晶、「山形のインディ映画の奇妙さ」を少しでも感じて頂けたら幸いです。今回は新作を出したいなあ…。

宮城代表のコメント 日野貴之

2011年3月11日。あの日から暗闇の中でも繰り返し唱え続けた言葉がありました。「チクショー、俺は生きてるぞ！」『パピヨン』のラストで放たれるスティープ・マックイーンの魂の叫びです。それは、僕を支えたもののひとつです。映画は娯楽で見世物で、一方で芸術で崇高でもあります。そのどちらかが人に生きる力をくれるものだと思います。東北は傷つき、倒れかけましたが、まだ僕たちは映画を生み出すことができます。「人は何故落ちるのか？這い上がるためだ(バットマン)」-力をくれる映画が、東北から生まれるはずです。

福島代表のコメント 齋藤由佳

最近になって東北で映画を盛り上げようとしている人々を知って「我らも我らも！」と参戦し始めました。反省しっぱなしですが「観ている人にとって面白い」作品になるよう毎度作っております。震災があったからは真剣さが増えました。只今、良い意味で「ぶっとんだ」作品を制作中です。この作品でスクリーン前に笑いの渦をおこしたいと意気込んでいます。